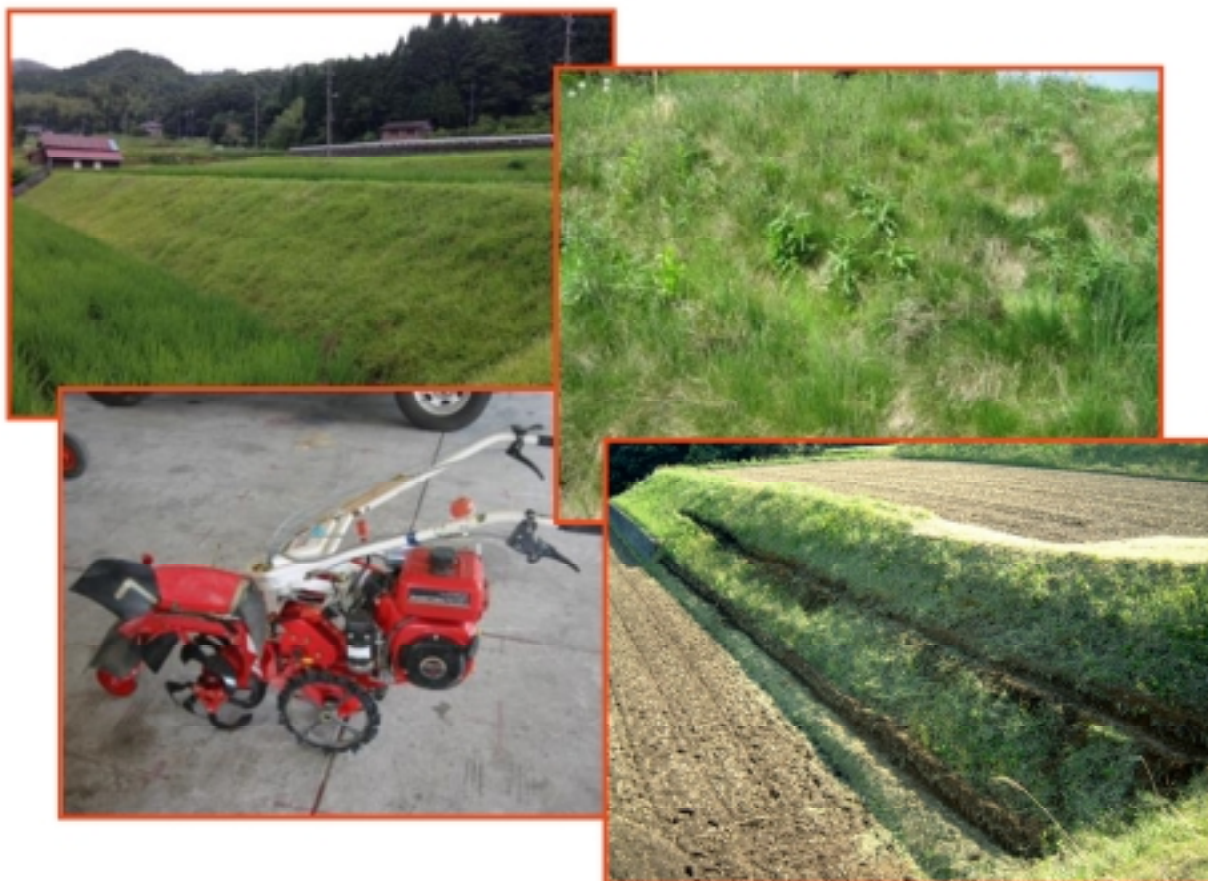


芝類への植生転換と作業道造成による

畦畔法面の省力管理マニュアル



2018年7月改訂

鳥取県農業試験場

はじめに

刈払機等による畦畔法面の草刈り作業は重労働です。中でも、中山間地域等の畦畔法面は広大で、高低差の大きい法面での作業は足場が斜面となることから滑落等の危険性が高く、平地に比べ足腰への労働負担も大きくなります。この草刈り労力の負担が非常に大きいことは、担い手農家等の農地集積に取り組む場合の阻害要因にもなっています。

また、本県水田の畦畔率は約10%に上り、全国平均の約4%、中国地方の約9%と比べても高く、草刈り作業回数も年4~5回行っており、「本田管理よりもつらい」という声を多く聞きます。

そこで、「急峻傾斜果樹園の狭福作業道造成用に開発された歩行型管理機（四国農業試験場、現：西日本農業研究センター）を、水田法面へ適用して草刈り作業の足場を平坦面とすることで省力・軽労化を図ることとしました（2003年度～）。

さらに、作業道を設置した法面で効率的な管理作業が行えるセンチピードグラスへの植生転換技術の開発を行い、本マニュアルとしてまとめ、2009年に一度公開しました。

加えて、センチピードグラスよりも安価に植生転換できる冬芝（ハードフェスク）を用いた管理方法を確立し、冬芝の機能維持期間が植栽後4年以上あることが確認できましたので、このたび本マニュアルに追記し、改訂に至りました。

ここに、本研究にご協力、助言をいただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

また、本成果が本県の中山間地域をはじめとする農業の振興と農地の保全に活用され、今後ともご批判、ご教示を賜れば幸いです。

1 技術の概要

2 転換する植生の選択

3 冬芝（ハードフェスク）への植生転換

- (1) 特徴
- (2) 生育特性
- (3) 植栽方法
- (4) 抑草剤の利用と植栽後の管理
- (5) 作業時間と経費

4 センチピードグラスへの植生転換

- (1) 特徴
- (2) 生育特性
- (3) 植栽方法
 - ① 苗移植
 - ② 手撒きによる播種
- (4) 植栽後の管理
- (5) センチピードグラス優占植生の利点
- (6) 作業時間と経費

5 法面作業道の造成

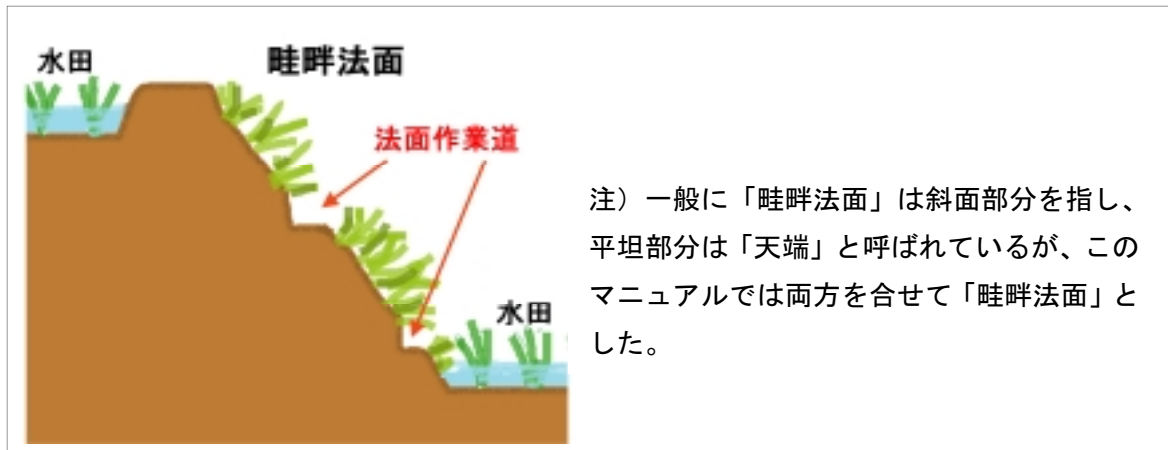
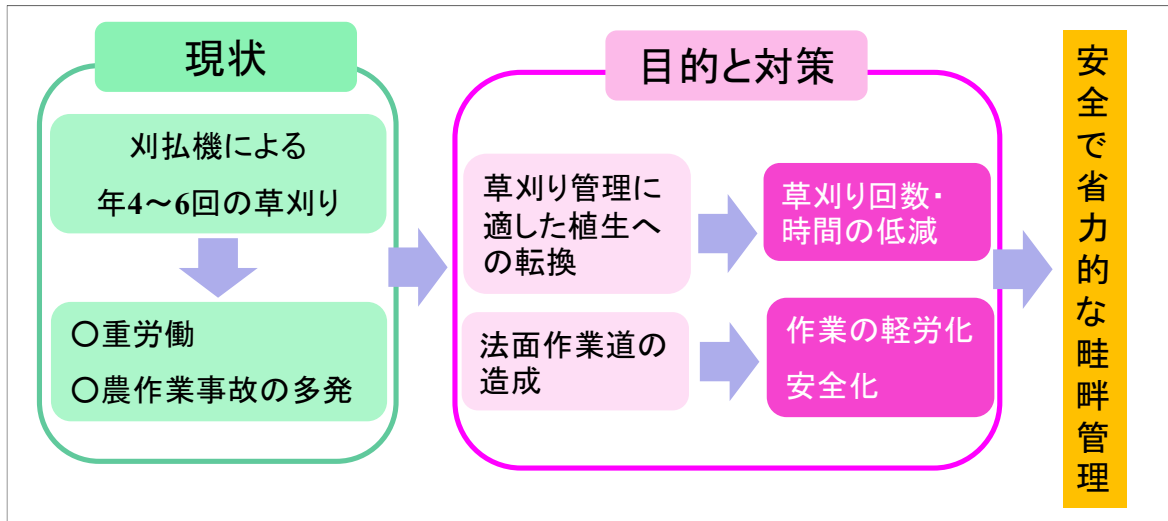
- (1) 法面作業道とは
- (2) 造成前に確認すること
- (3) 狭幅作業道造成機による簡易造成法
 - ① 利用する機械
 - ② 法面作業道造成の手順
 - ③ 安全作業のためのポイント
- (4) 維持法
- (5) 作業時間と経費
- (6) 取組事例の紹介

参考資料 1～3

6 問い合わせ先

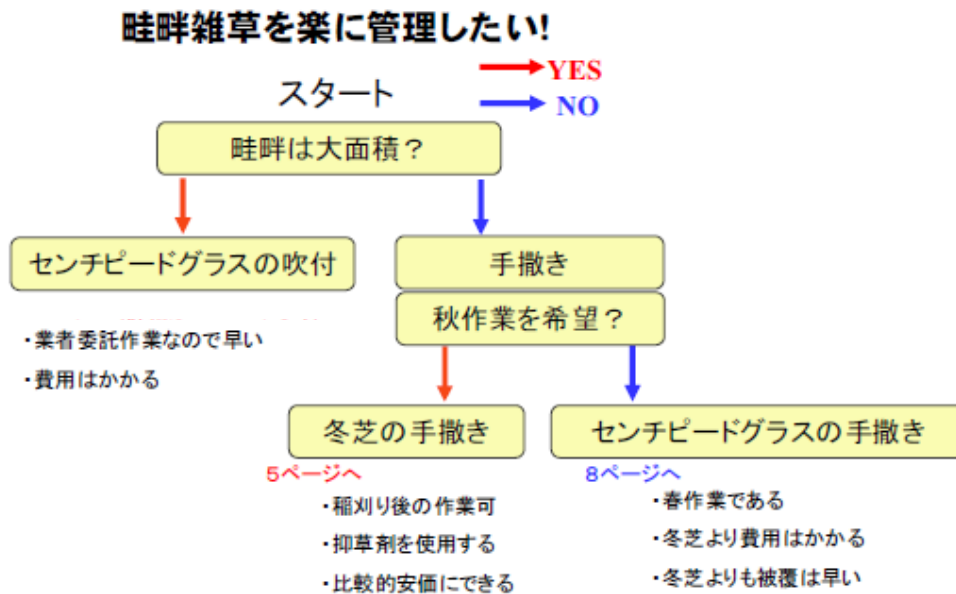
1. 技術の概要

- ①畦畔法面の雑草管理は多大な労力を要し、斜面での作業のために危険も伴っており、高齢化の進む中山間地域や大規模な水田を管理する担い手にとっては大きな問題となっています。
- ②ここで紹介する技術は、雑草管理作業を省力化するため、抑草剤を効果的に使用しながら背丈の低い芝類などの植生に転換し、作業の足場となる法面作業道を造成する管理方法です。
- ③技術の1つを取り入れても省力化になりますが、2つの技術を組み合わせることでより安全で効果的な管理となります。



2. 転換する植生の選択

本マニュアルで紹介する芝類は、「センチピードグラス」と「冬芝（ハードフェスク）」の二種類です。生育時期や特色、播種方法が異なりますので、取り組まれる際は下のフローチャートを参考にしてください。



3. 冬芝（ハードフェスク）への植生転換

(1)特徴

- ハードフェスクは、冬芝の中では比較的、耐暑性、耐旱性、耐陰性が高く、根張りも良く、道路法面でも広く利用されています。
- 葉は細く20～40cmと長いですが、法面では垂れ下がるため草高は20～30cm程度となり、厚い茎葉層で地表を覆います。



ハードフェスク



ハードフェスク植生法面

(2)生育特性

- 生育期は9月から6月であり、夏雑草との競合を避け生育することができます。
- 日当たりの悪いところでも生育できますが、踏圧されるところや黒ボク土では生育不良です。
- 種子の発芽可能気温は5℃以上で、15℃以上で1週間以内に発芽できます。
- 稲刈り後の10月が播種適期です。

	春			夏			秋			冬		
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
夏芝 (暖地型芝草)	休眠		(発芽)	(出穂)			生育				休眠	
冬芝 (寒地型芝草)	生育	(出穂)			停滞		(発芽)	生育				停滞

表1 夏芝（センチピードグラス等）との生育時期のちがい

(3) 植栽方法

① 既存雑草の処理

前年秋（9月下旬～10月上旬）に非選択性除草剤（グリホサート系）を散布します。

② 残渣撤去

約2週間後に熊手などで残渣をある程度撤去します。裸地化しすぎると、播種後の降雨で種子が流亡しやすいので、ところどころ土が露出する程度が望ましいです。

③ 芝の播種

手で播種できます。播種量は10～15g/m²です。約2週間で発芽が揃い、翌年6月までに全面が緑化されます。



(4) 抑草剤の利用と植栽後の管理

④ 抑草剤の利用

播種後に再生した雑草の刈払いと併せ、抑草剤（グラスショット液剤）を4月と6月頃に散布してください。グラスショット液剤は水田の畦畔や農道、水路などの法面（傾斜地）の雑草の抑草剤として開発された薬剤で、冬芝への影響やドリフトによる稲への薬害の心配は比較的少ないです。 ※クミアイ化学工業株式会社ホームページより一部抜粋

⑤ 植栽後の管理

冬芝は5月に出穂し40～80cm程度の穂が発生するため、高刈り（15cm程度）が必要となります。葉は濡れるとすべりやすいため、大きな法面では足場として小段の造成などが望ましいです。葉に褐変が生じた場合、養分不足による葉枯病の可能性が高いので、粒状肥料を5～10kg/1000m²程度施用することをお勧めします。

夏場に10cm以下で刈り込むと枯死する恐れがあるので、高刈りに努めてください。

(5) 作業時間と経費

植生転換にかかる作業時間と経費 (1,000 m²当たり)

作業内容	資材費	労務費	備考
除草剤散布	除草剤 3,200円	1,300円(1時間)	ラウンドアップ液剤 1,000ml/10a (1,600円/500ml)
残渣撤去		10,400円(8時間)	刈払機、熊手は持参
芝播種	芝種子 35,000円	2,600円(2時間)	ハードフェスク種子 15kg/100m ² (2,300円/kg)
抑草剤散布(2回)	抑草剤 6,400円	1,300円(1時間)	グラスショット液剤 500ml/10a (3,200円/500ml)
合計	44,600円	15,600円(12時間)	60,200円

(H29年3月現在)

4. センチピードグラスへの植生転換

(1)特徴

●センチピードグラス（品種「ティップレア」）

匍匐茎を伸長させるので、比較的間隔の広い植栽密度から畦畔を全面被覆することができます。

●草丈は伸びても 30cm 程度までなので、景観面でも優れる草種です。



センチピードグラス



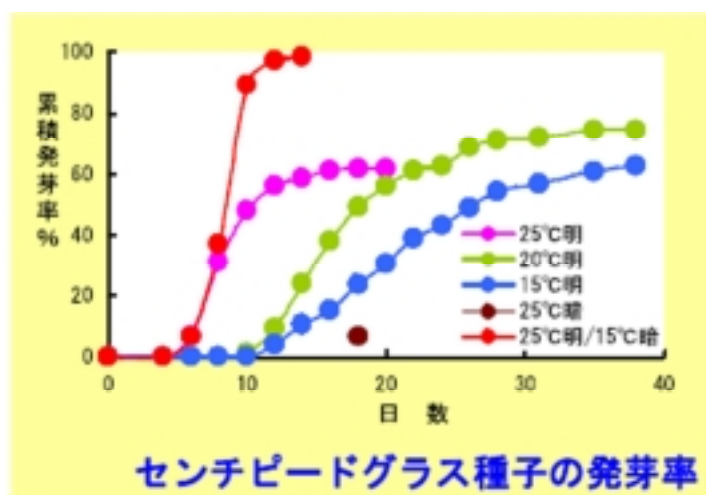
センチピードグラス植生法面

(2)生育特性

①種子の発芽特性

●センチピードグラス種子の発芽には光が必要です。

●恒温条件よりも温度の日変化のある条件で発芽が良好です。



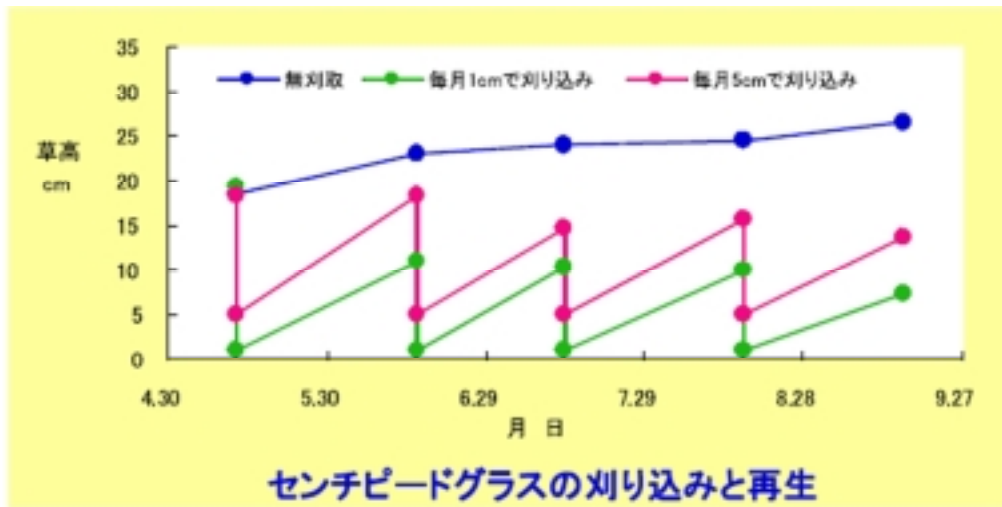
②季節消長

●冬季には地上部が枯れるので、春季には冬雑草に覆われていますが、5月～6月以降旺盛な生育を示します。

●被覆の完成した植生では、7～8月以降出穂が見られます。

③刈り込みと再生

- センチピードグラスは高さ 5cm 程度での刈り込みではあまりダメージを受けませんが、地際近くで刈り込むと草勢が衰えます。



(3) 植栽方法

① 苗移植

- 植栽予定畦畔には、植え付けまでに2~3回、畦畔に登録のある除草剤（ラウンドアップマックスロード、バスタなど）を散布して、できるだけ既存雑草を枯らしておきます。
- 4~5月にセンチピードグラス種子を混合した育苗土（土 1.5ℓに 2g 程度）を、床土を詰めたセルトレーに撒き、苗を育てます。
- 育苗には適度な水分が必要なので、土が乾燥しすぎないように注意してください。
- 6~7月に 25cm 程度の間隔でセル苗を畦畔に植えつけます。



セル苗



移植後 30 日の株

②手撒きによる播種

- 植栽予定畦畔には、植え付けまでに 2～3 回、畦畔に登録のある除草剤（ラウンドアップマックスロード、バスタなど）を散布し、できるだけ既存雑草を枯らしておきます。
- 撒いたばかりの種子は雨などで流亡しやすいので、予め法肩などに鍬で溝をつけておき、種子が法面に留まりやすくすることをお勧めします。
- 6月～7月に条間 30cm 程度のすじ撒き（播種後軽く覆土）か、全面撒播します。
- 播種量は 1 m²あたり 10g が目安です。
- 直播では、播種後の種子がアリに持ち去られることがあります。



10g の目安



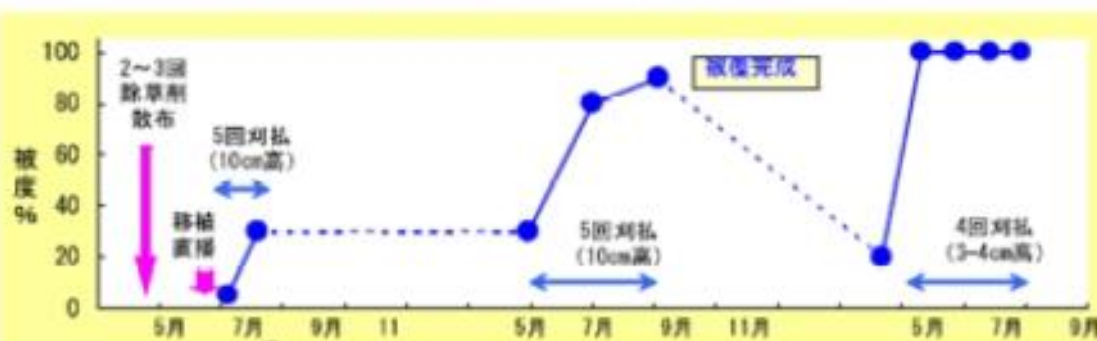
すじ撒きの様子



移植後 30 日の株

(4) 植栽後の管理

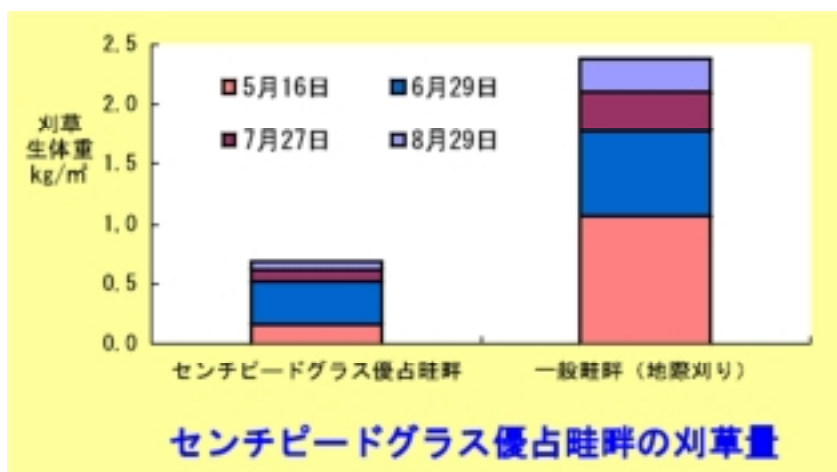
- 植栽 1 年目及び 2 年目は、センチピードグラスが長期間他雑草に被陸されない程度に、高さ 10cm 程度の草刈りを行います（地際刈りは避けてください）。
- 順調に生育した場合、センチピードグラスは植栽年の秋には約 30%、翌年の秋には 90% 以上の面積を被覆します。初年度に被度が 20% でも失敗ではないので、雑草管理を続けてください。
- センチピードグラスの被覆が完成した後は、年 3～4 回・高さ 3～5cm 程度の刈払いで管理します。



植え付け後のセンチピードグラスの被度の推移

(5) センチピードグラス優占植生の利点

- センチピードグラスが優占した畦畔の年間刈草量は、一般的な畦畔に比べて少なくなく、管理労力が軽減されます。
- 斑点米カメムシ類の好むメヒシバやエノコログサ類が生えなくなります。



(6) 作業時間と経費

★苗移植、直播の場合

植栽にかかる作業時間(1,000㎡)

単位：時間

作業名	人員	作業時間
除草剤散布	1	12.6
播種	1	42.5
合計	1	55.1

植栽転換にかかる経費(1,000㎡)

単位：円

作業名	経費	作業時間
種苗費	7,000	種子: 10g/㎡ × @4,200円/500g、条間30cm
諸材料費	2,610	育苗土: 4.1袋 × @766円/袋
農薬費	390	除草剤: ラウンドアップハイロード2回 272円、バスタ1回 191円
労働費	5,970	除草剤散布・播種作業時間: 55.1h
小計	15,970	植栽時の経費合計 191,640円の1/12年分
草刈り増加分(2回)	3,850	植栽年及び翌年の草刈り増加分(刈払機での作業2回 × 2ヵ年分)
合計	19,820	草刈り増加分を含む経費合計 237,840円の1/12年分

★吹付の場合

吹付委託費： 1,000㎡当たり 38万円 (380円/㎡)

種子の価格は変動することがあるため、上記は参考価格です。この他に、除草剤散布や草刈り経費が別途必要となります。

5. 法面作業道の造成

(1) 法面作業道とは

大規模な畦畔法面に沿って作業道を 1.5～2m 間隔に造成したもので、そこを草刈り作業時の足場にすることで、畦畔法面の草刈り作業が楽に、安全に行えます。

(2) 造成前に確認すること

○植生のある畦畔法面で水田並びに畦畔の管理が行われている法面への造成は概ね可能です。付表 3 に法面作業道造成に伴う法面強度の調査結果を示します。

○雨雪の影響等による侵食や崩落が作業道の造成によって助長されることが予想される個所や湧水箇所への造成は避けたほうがよいでしょう。

(3) 作業機による簡易造成法

① 利用する機械

作業道造成には、狭福作業道造成機（マメトラ四国機器、歩行型溝堀機 MRV2VHS、逆転ロータリ、片排土）を用います。



法面作業道造成の手順

- 作業道を設置する法面は、事前に草刈り作業を行い、刈草は集草もしくは持ち出します。
- 作業道の設置個所や間隔は、それまでの刈払機による草刈り作業時の足場位置の痕跡に習って、設置間隔が 1.5～2m 程度で決定し、目串等により水平にマーキングします。
- 作業道の幅（足場）は、作業道の延長方向を見て両足を揃えて立てる 20～25cm を目標とし、造成作業は前後進の往復作業を 1～2 回行いながら幅を拡げます。
- 100m 当たりの作業時間は 1 時間程度です。



② 安全作業のためのポイント

- 必ず二人以上（機械を操作する人、補助者）で作業を行ってください。
- 造成機の中央にロープをくくりつけ、補助者が法面の側から引っ張るなどして安全を確保します。
- ハンドルを持ち上げ気味にしてロータリを積極的に掘削面に押し付けることで運転操作はより安定します。
- こぶし大以上の石が埋没している箇所や、葛の太い根がある箇所では、スリップや作業機滑落の危険が生じるので、無理をせず前進し、支障のない位置から作業を再開します。



補助者による安全確保の事例



(4) 維持法

- 作業道の造成直後に歩行面の踏み固めを行うと伴に、谷側の肩部への排土をスコップなどを用いて叩き締めを行います。
- 湿った箇所には、造成後消石灰を1m当たり0.8~1kg散布すると歩行面が締まります。
- 掘削面の肩部分の表土の崩れが心配される個所には、土止めを行うなどしてください。
- 除草剤散布は、過度な裸地化による表土の崩れを助長するので、なるべく避けましょう。



(5) 作業時間と経費

作業道造成の作業時間(100m当たり)

単位: 時間

作業名	人員	作業時間
マーキング	3	0.08
造成機操作	2	0.75
作業補助等	1	0.75
確認・休憩	3	0.17
合計	3	1.00

作業道造成の経費(100m当たり)

単位: 円

項目	金額	備考
機械利用経費	1	価格220,500円、35%
固定費	964	造成距離8,000m/年
変動費	94	消費量0.66ℓ/100m
労働費	3,900	1,300円/h、3名
合計	4,958	

注) 造成準備のための草刈作業は含まない

(6) 取組み事例の紹介

● 鳥取県における法面作業道の造成事例



高低差の大きい農道沿いへの造成例
(東伯郡三朝町吉尾)



法尻位置への造成例
(八頭郡智頭町大屋)



造成作業の様子
(西伯郡伯耆町間地)



造成作業の様子
(鳥取市河原町谷一木)

参考資料1 法面作業道造成にともなう法面強度（安全性）の検討

法面作業道造成にともなう法面の崩壊危険性については、技術導入に当たって懸念される大きな問題です。以下に、本県現地において近畿中国四国農業研究センターが行った法面強度の調査結果を紹介します。

1. 現地調査法面



調査地点①および②
(鳥取市河原町)

調査地点③
(東伯郡三朝町)

調査地点④
(日野郡江府町)

図1 現地調査法面の概況

表1 各調査地点での現場測定データおよび室内土質試験結果

調査地点番号		①上	①下	②上	②下	③上	③下	④上	④下
法面形状	斜面長さ	3.9		4.0		5.8~7.1		3.8	
	勾配	36~41		40~45		37~48		37~40	
一般	湿潤密度	1.65	1.76	1.80	1.79	1.46	1.56	1.44	1.79
	乾燥密度	1.18	1.27	1.35	1.34	0.85	0.93	1.05	1.58
	土粒子の比重	2.60	2.60	2.77	2.77		2.63	2.51	2.66
	自然含水比	39.5	38.5	33.9	34.3	72.6	69.6	37.6	13.4
	間隙比	1.20	1.05	1.05	1.07		1.83	1.39	0.68
	飽和度	85.3	95.6	89.3	89.0		100.1	67.9	52.1
粒度	礫分	2						56	
	砂分	27						27	
	シルト分	29						9	
	粘土分	42						8	
	最大粒径	9.5						53	
コンシステンシー	液性限界	62.1		56.9		108.5		77.2	
	塑性限界	33.4		32.2		47.0		NP	
	塑性指数	28.7		24.7		61.5		NP	
	液性指数	0.21	0.18	0.07	0.09		0.37		-1.1
	コンシステンシー指数	0.79	0.82	0.93	0.91		0.63		2.1
分類	地盤材料の分類名	シルト (高塑性限界)				火山灰質粘性土		(黒ボク)	
	分類記号	(MH)				(VH2)		(GFS)	
SR-2型原位置せん断試験	粘着力 C	8.7	6.5	5.9	6.8	17.9	8.1	6.8	8.6
	内部摩擦角 φ	30.9	41.9	38.2	39.8	29.2	47.9	41.6	39
簡易動的コーン貫入試験 Nd値(深さ20cmでの測定値)		2.0~3.2 (平均2.4)		0.8~6.6 (平均3.6)		1.6~2.0 (平均1.7)		2.0~6.3 (平均4.9)	

注)上:法面表面、下:深さ20~25cm地点における測定値

2. 法面強度の検討（安定解析）

調査法面のうち、水田法面に多く見られる土壌である①からの採取土を用いて、一面せん断試験（再成型試料を用いた定体積圧密非排水試験）を行い、土壌の強度 C_{cu} 、 ϕ_{cu} を測定しました（図2）。この数値を土の強度定数として使い、法面の勾配や作業道の設置位置を変化させて斜面安定解析を行ったところ（図3）、いずれのケースにおいても安全率 $F_s = 1.556$ 以上となりました（安全率 F_s は、1.0 以下で崩壊の危険があり、1.2 以上が安定の目安です）（表2）。

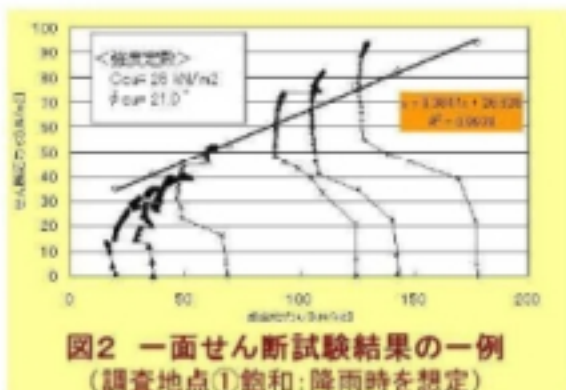


図2 一面せん断試験結果の一例
（調査地点①飽和：降雨時を想定）

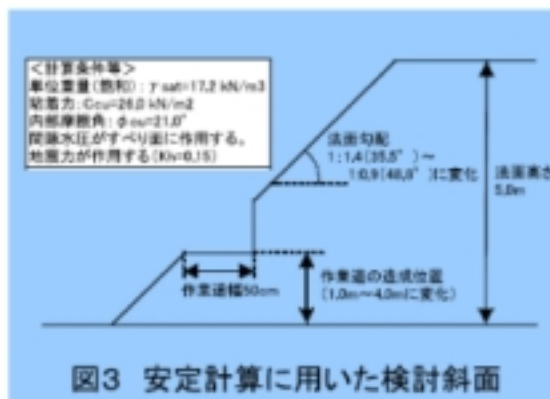


図3 安定計算に用いた検討斜面

作業道の設置がどこであっても法面全体のすべりに対する安全率はほとんど低下しないこと、さらに作業道設置位置を通る部分すべりの安全率は、法面全体の安全率よりもかなり大きいことがわかりました（表2）。

表2 作業道造成に伴う法面安定性の解析結果（調査地点①飽和）

法面勾配	作業道の造成位置(基盤からの高さH)	各ケースでの最小安全率(F_{smin})と作業道造成の影響					
		全体すべり			作業道造成面を通る部分すべり		
		① 作業道なし	② 作業道あり	安全率の低下度合い ②/①	③ 作業道なし	④ 作業道あり	安全率の低下度合い ④/③
1:0.90 (48.0°)	H=4.0m	1.557	1.561	1.00	6.661	5.421	0.81
	H=3.0m		1.560	1.00	3.483	3.180	0.91
	H=2.0m		1.558	1.00	2.429	2.296	0.95
	H=1.0m		1.556	1.00	1.874	1.802	0.96
1:1.00 (45.0°)	H=4.0m	1.592	1.598	1.00	6.871	5.618	0.82
	H=3.0m		1.596	1.00	3.592	3.293	0.92
	H=2.0m		1.594	1.00	2.486	2.356	0.95
	H=1.0m		1.593	1.00	1.925	1.860	0.97
1:1.20 (39.8°)	H=4.0m	1.675	1.680	1.00	7.278	6.102	0.84
	H=3.0m		1.678	1.00	3.763	3.518	0.93
	H=2.0m		1.676	1.00	2.609	2.508	0.96
	H=1.0m		1.675	1.00	2.020	1.976	0.98

以上より、造成前の法面全体が安定していれば、法面作業道造成に伴う強度低下はほとんどなく、崩壊の危険性は少ないと判断されました。

（近畿中国四国農業研究センター）

参考資料2 法面作業道についてのアンケート集計結果

今後の普及推進の参考にするため、先進的に狭福作業道造成機により作業道を設置した日野郡の主要な農家13戸を普及展示モニターとして、作業道の利用状況及び効果についてアンケート調査を行いました。

設問1 作業道の目的別利用状況 (単位:人)

利用状況	1位	2位	3位	割合(%)
あぜの草刈り	13			100
施肥		2		15
薬剤散布			2	15
資材の運搬				
その他				

設問2 草刈りの作業強度(肉体的辛さ)

作業強度	人数(人)	割合(%)
非常に楽	2	15
楽	11	85
普通		
きつい		
非常にきつい		
計	13	100

設問3 草刈り作業の軽労化(肉体的辛さの軽減程度)

軽減程度	人数(人)	割合(%)
前より辛くなった		
変化なし		
やや軽減された		
少し軽減された	3	23
半分くらい軽減された	1	8
かなり軽減された	4	31
大幅に軽減された	5	38
計	13	100

設問4 草刈り作業の安全性の向上(緊張感の軽減)

軽減程度	人数(人)	割合(%)
前より悪い		
変化なし		
やや良くなった		
少し良くなった	2	16
半分くらい良くなった	3	23
かなり良くなった	3	23
大幅に良くなった	5	38
計	13	100

設問5 草刈り作業の効率化(作業時間の増減)

増減程度	人数(人)	割合(%)
減少(20%以上)	5	38
減少(10~20%)	1	8
減少(10%未満)	3	23
変化なし	1	8
増加した(10%未満)	1	8
増加した(10~20%)	2	15
増加した(20%以上)		
計	13	100

設問6 作業道設置法面の傾斜

区分	人数(人)	割合(%)
緩やか	1	9
少し急	5	91
かなり急	5	
計	11	100

設問7 作業道を他に設置しますか

区分	人数(人)	割合(%)
現在のほ場のみ	4	31
他ほ場に設置したい	9	69
計	13	100

設問8 周辺農家の評価(6戸の周辺)

区分	人数(人)	割合(%)
作業道を設置したい	14	67
作業道を出れば設置したい	7	33
設置するほどではない		
設置しない		
計	21	100

設問9 作業道を作る方法

区分	人数(人)	割合(%)
自分で機械を購入し設置する	1	8
JA等が機械を購入し農家に貸し出し	1	8
JA等が機械を購入し有料で設置	10	84
計	12	100

設問10 作業道設置依頼の有無

区分	人数(人)	割合(%)
作業道設置を依頼しない	4	31
作業道設置を依頼する	9	69
(設置希望総延長 2,030m)		
計	13	100

設問11 作業道設置費用

設置費用	人数(人)	割合(%)
50円~100円/m	5	63
100円~200円/m	3	37
計	8	100

設問12 作業道を造る上での要望

・作業道の幅がもう少し広い方がよい(10~20cm)

設問13 作業道を草刈り作業に利用した感想

・作業中に転び、その都度休憩が必要であったがその程度が少なく非常に楽になった。
 ・年齢が進むにつれ、作業道の良さが分かる。
 ・とても楽に作業が出来て楽である。
 ・作業道に足が掛かり、滑りにくく安全である。
 ・法面の草刈りをしようという意欲がでました。
 ・作業が楽になったが、作業道部分を刈るのに手間がかかる

- 1)実施者: 日野総合事務所農林局農業振興課
- 2)集計: 平成17年8月22日(実施は7月)
- 3)対象: 日野郡内の13戸の農家(日南町2戸、日野町3戸、江府町8戸)
- 4)設問の内容等: 設問数13(上記のとおり)

参考資料3 法面作業道の経年変化

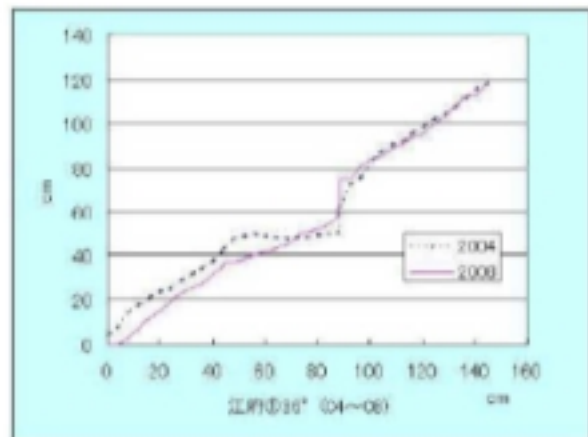
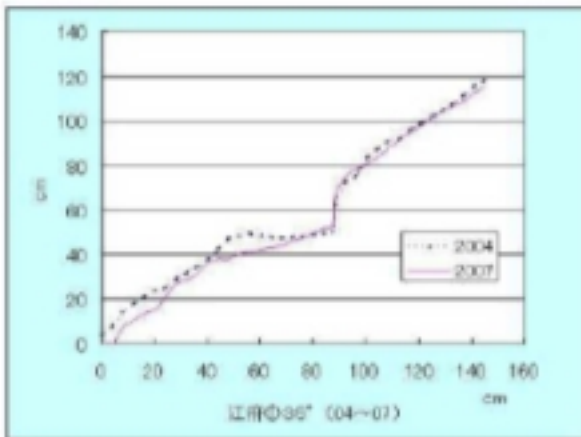
通常の草刈り管理をしていけば概ね5年程度は道としての十分に機能します。定点調査を行った現地の法面作業道の経年変化を以下に示します。

表 法面作業道の道幅の変化(定点設置による形状追跡調査結果より)

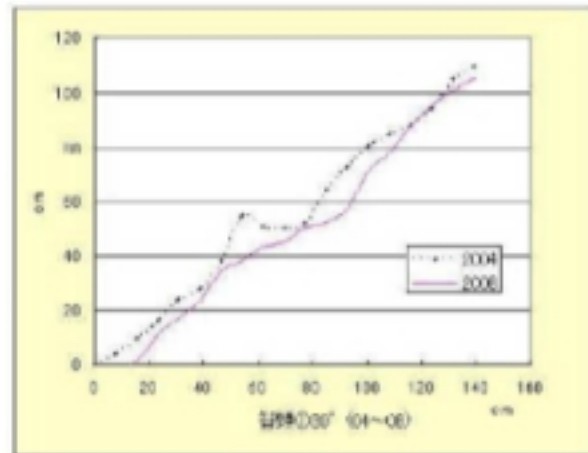
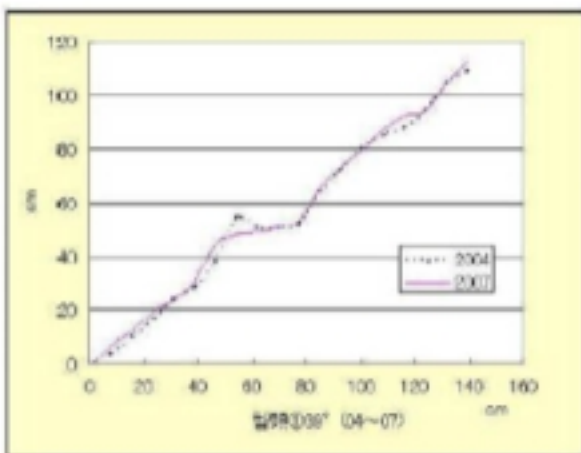
地点	法面傾斜角°	土質	経過月数(調査間)	定点設置時道幅cm	2008.10道幅cm	道幅の増減cm	備 考
江府	①	黒土(表層)、 細粒分まじり微	60(51)	39	39	0	チガヤ群落残 造成2年目に 除草剤散布、焼き払いによる 裸地化経験あり その後は刈払機による管理
	②			37	19	-18	
	③			29	7	-22	
	④			21	7	-14	
	⑤			38	8	-30	
	⑥			26	26	0	
三朝	40.5	火山灰性粘性土 (VH2)	53	14	20	6	チガヤ群落あり 早期に草生回復 年3回以上の刈払機による 草刈りが行われている。
				13	12	-1	
智頭	37	礫質灰色低地土 、灰色系	50	22	20	-2	2007までは通常の管理 2008年放任で幅減
				22	15	-7	

注) 江府の定点設置は作業道造成(2003.10)の9ヶ月後(2004.7)と24ヵ月後(2005.10)

三朝・智頭は作業道造成の同日に定点設置、三朝(2004.5)、智頭(2004.8)。



造成4年後と5年後の形状(2003造成、チガヤ群落箇所)



放任による極端な形状変化(2004造成、2007~2008放任管理の例)

問い合わせ先

この手引きに関する問い合わせについては、下記までご連絡ください。

鳥取県農業試験場作物研究室

所在地 鳥取県鳥取市橋本260

電話 0857-53-0721

ファクシミリ 0857-53-0723

E-mail nogyoshiken@pref.tottori.lg.jp

HPアドレス <http://www.pref.tottori.lg.jp/nogyoshiken/>